

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0213 NO93

校長 伊波喜一

卒業の 時を惜しみて メモ見つつ 未来に向けて 夢を語らん

6年生とのお別れ会食が終わった。A～Iの9班に分かれての会食は、子ども達には緊張の一時だったようだ。始めは少し遠慮がちだったが、次第に饒舌になり、またたく間に時間が過ぎていった。筆者はといえば、一人一人の名前の由来に関心・感心・感動し、将来の夢に心躍らせるという至福の時を過ごした。(学年開きの5月頃にこのような会食が持てれば、もっとこの子達の事を知れるのになあ)と思ったりもしたが、時間のやり繰りをするのが大変なのは分かっているので、黙っていることにしよう。披露宴の席でも、座持ちの上手い人がいるが、彼らに共通するのはその積極性と話題の豊富さだ。仲間内で固まらず、回りの人と屈託なく話をしていく。今、興味を持っていることや趣味・ボランティア活動など、自分の事をさらっと話しては、相手に話題の引き出しを開かせていく。見事なものだと思う。人は慣れの生き物であると言われる。会食という座談の場も、慣れてくれば本領を発揮するに違いない。適度に気配りし、座を盛り上げる術を学ぶ機会としていけたら、面白い。